

(科目コード : 2006620007AA)

【改訂】第26版(2013-05-07)

【科目】日本文化論

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択 【学期・単位数】前期・2単位

【対象学科・専攻】生産システム,環境 2年

【担当教員】田貝 和子

【授業目標】

- (1) 日本語の歴史を通時的に学ぶことで、自己の表現活動に役立てる。
- (2) 日本文化を理解することによって、今後の日本に何が必要なのかの端緒を模索する。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は22.5時間である。
- ・各時代の日本語の歴史について学習し、日本文化の基底をより深く理解する。
- ・資料収集の作業を元に、自分の研究テーマに関する事項に対して、日本における歴史の変遷を探る。
- ・自分の研究テーマに対して、日本文化史の視点から発展可能な事項を見出す。

【教科書・教材・参考書等】

毎回自作プリントを配布する。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

前半は、日本語の歴史について講義形式で行う。

後半は、各自のテーマを設定した上で、実際に図書館において調査する。その後、レポートとしてまとめる。

【メッセージ】

歴史を知ることは、現代を知ることです。ことばが変化してきた様子について、思いを馳せてみてください。また、現代科学の参考となる事項を掘り起こし、日本の風土に適合した開発を考える第一歩になればと思います。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：50%，レポート：50%

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する

【授業計画】(日本文化論)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	授業概要	授業の概要を述べ、意義と目的について説明する。 日本語史の全体像について理解する。		
第2回	上代の日本語	上代(奈良時代)の日本語の特色について学ぶ。		
第3回	中古の日本語	中古(平安時代)の日本語の特色について学ぶ。		
第4回	中世の日本語	中世(鎌倉室町時代)の日本語の特色について学ぶ。		
第5回	近世の日本語	近世(江戸時代)の日本語の特色について学ぶ。		
第6回	近代の日本語	近代(明治時代以降)の日本語の特色について学ぶ。		
第7回	中間試験	日本語史についての筆記試験。		
第8回	テーマ設定	自己の研究に関連するテーマを設定する。		
第9回	資料収集方法	辞書や索引などを使って、資料収集を行う。		
第10回	レポート作成 1	資料をもとにレポートを作成する。		
第11回	レポート発表	レポートの内容について発表する。		
第12回～第13回	相互批評	作成されたレポートを相互批評する。		
第14回	レポート作成 2	レポートの内容を修正する。		
第15回	総括	授業の総括を行う。		